

●復活後第五主日

# 泉のほとり

今月の詩編「第百十三編」

わたしたちの神、

主に並ぶものがあるうか。

主は御座を高く置き

なお、低く下つて天と地を御覧になる。



## 盗んではならない

「盗んではならない」と命じられる第八戒を聞きますと、警察が取り締まるような犯罪をすぐ思い浮かべます。物を盗む以外にも目に見えない、警察沙汰にはならない盗みも多くあります。例えば従業員が約束した時間に仕事を怠けることは「時間を盗む」と言えます。

物を盗むほかにも技術やアイデア、人の言葉、手柄や名誉、信用を盗むこともあります。抽象的かもしれませんが、それが、人の人生を盗むこともあると思います。そして、それらを所有するために人は時間、努力、労力を費やしてきたという共通点があることに気付かされます。

実際に、人が所有している「物」を考えますと、それはその人自身が費やした時間、労力による収入から得た「実」です。限られた時間を生きる人にとつて、物を盗むことは大げさな表現に聞こえるかもしれませんが、その人が費やした命の一部を盗むことでもあります。「盗み」とは人が時間と労力を使って得た物を許可なしに自分のものにしたものと定義できます。

人は労苦せず得る収入を喜ぶのではないでしょう。か。時間と労働を投入し、得られる収入は、時間も力も必要です。金銭がこの世においての生活を豊かにし、安楽にしてくれることを知っているので、あればあるほど日々の生活に思い悩むことなく生きられると思うのです。人は正当な収入ということより、労苦せず与えられることを「得をした」と思うのです。少なくとも、多くもらえたら、と思うのです。労苦せず、楽をして得ることを多くが喜ぶのです。その端的な例が不正や賄賂であり、根っ子は「盗み」と違わないのです。大きな金銭が目の前であれば、誘惑され、不正な富であっても受けてもよいものと見たい心が働きます。正当な収入からのものではない、労苦せず得られる物を喜ぶ心があること自体、行動に移していないだけかもしれません。

創世記3章で、神は「汗を流してパンを得る」と人に宣告されました。人の物を盗むことはこの神の宣告

から逸脱したことです。主イエスの「受けるよりも与えるほうが幸いである」という教えこそ、第八戒が究極的に指し示す本来のあり方ですが、まず自分の口に入るものに対する忠実さがなければ、それは実現不可能なことでしよう。第八戒は本来よいとされた姿への第一歩と言えましょう。巨額の不正で得た大金より、神の前では労苦して得た手元の数万円のほうがはるかに尊く価値があります。神は金額の大きさではなく、私たちがどのように得たのかをすべて正しく量られるのです。

学生はカンニングをすることで時間と労力を盗まず、知識を得るにも時間と労力を費やし、神の目によしと量られるものにしていきましょう。働き人は受ける権利の主張を中心にせず、会社から受ける以上に与える心で働こうではありませんか。この世においては誰もその報いをかえりみてくれなくても、神は手元にある報酬の価値を正しく量ってください。学者も知識を盗まず、手柄や名誉に惑わされず、研究していきましょう。説教者は神を恐れ、語る言葉に一切の誤用がないように恐れ、備えましょう。神の御名を背後に語る言葉は人の生き方に影響を与え、その結果、神のことは盗むこと、人の人生を盗むことにもつながるからです。

レビ記6章では、隣人の物を盗んだ人が自らの責めを覚え、120%にして償うとともに、神の信頼を裏切った代償のさきげ物として傷のない雄羊をささげることが命じられています。そのように悔いた心で隣人に対し償い、聖なる神の民とされた自分が神の信頼を裏切ったことに心を痛め、雄羊を連れてくる、そのきよい良心は神に受け入れられないことではないでしょう。

私たちが受けた福音は代償のさきげ物となられた主イエスです。いかなる「代償」が支払われたかを知る者は、代償を払わずに人のものを盗むことはできず、隣人の時間や労力を知らずにでも侵害しないようにと生きます。十字架は私たちにそのきよい良心を与えています。それにとどまらず、自分の努力、時間、自分の命であるそれらをもって人に与えることを喜ぶ、十戒が指し示すそのキリストの聖なる心に倣い、生きていこうではありませんか。

(出エジプト記二〇章一五節黄允湜牧師)

## 《公 告》

左記により、今年度につきましては延期が決定しておりました四月教会総会を開催致します。現住陪餐会員はご参加下さい。

2026年5月10日  
キリスト品川教会  
代表役員 黄 允滉

### 記

日時 2026年5月24日(日)12時30分  
場所 グローリア・チャペル・地下ホール  
及びリモート

### 議事

- 1 2025年度教勢報告
- 2 2025年度行事報告
- 3 2025年度諸会計報告、財産目録
- 4 2025年度諸報告

以上

## 《今日のお知らせ》

- 二〇二五年度決算のための役員会をカナンルームで行います。役員の方はお集まりください。
- 次回の洗礼、転入会式は七月二六日です。その時に、受洗、転入会をご希望の方は五月一七日までに願書をお書きの上、牧師宛ご提出ください。願書は事務所にあります。

○ 教会員の桑原あさひさんのご家庭に、長女の暁理(あかり)さんが誕生しました。

## 《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会を第二・三シオンルームで行います。

## 《ルツの会より》

礼拝後ルツの会を地下ホールで行います。  
聖書、讚美歌をお持ちの上、ご参加ください。

## 《教会事務所より》

【お願い】 状差内の整理について  
五月の総会に向けて資料配布の時期が近づいておりますので、円滑に印刷物を投函できるよう、状差内の整理にご協力をお願いいたします。

## 《お弁当の申込み》

奉仕班よりお知らせします。  
5月24日ペンテコステ礼拝後、祝会を地下ホールで行います。この日はお弁当とバナナとお茶とコーヒー(コーヒー班)でお一人様500円ご予約はロビーの掲示板にお名前をお書き下さい。

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

〔司・会〕の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇百十三篇】賛歌。

ハレルヤ。主の僕らよ、主を賛美せよ

**主の御名を賛美せよ。**

今よりとこしえに

**主の御名がたえられるように。**

日の昇るところから日の沈むところまで

**主の御名が賛美されるように。**

主はすべての国を超えて高くいまし

**主の栄光は天を超えて輝く。**

わたしたちの神、主に並ぶものがあるうか。

**主は御座を高く置き**

**なお、低く下つて天と地を御覧になる。**

弱い者を塵の中から起こし

乏しい者を芥の中から高く上げ

**自由な人々の列に**

**民の自由な人々の列に返してください。**

〔司・会〕

**子のない女を家に返し**

**子を持つ母の喜びを与えてください。**

ハレルヤ。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「主イエスを教える聖書」

聖書 ヨハネ5章34〜40節

説教者 吉村和雄名誉牧師

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「悔い改める一人の罪人を」

聖書 ルカ15章1〜7節

説教者 宮間彰広兄

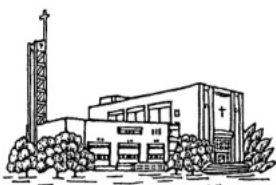
●主日礼拝(午前10時30分・礼拝堂)

讚美歌 159番 339番

説教 「偽証してはならない」

聖書 出エジプト20章16節

説教者 黄允湜牧師





## 主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 148番 321番  
説教 「主の弟子として歩む中で」  
聖書 使徒9章32～43節(新約 P.231)  
司式 石川 一 兄  
聖餐司式 黄 允湜 牧師  
説教者 宮間 彰広 兄

前奏曲「我ら皆唯一の神を信ず」 J.S.バッハ

### ○讃美歌148番

1. すくいぬしは ハレルヤ  
よみがえりたもう ハレルヤ  
かちどきあげて ハレルヤ  
み名をたたえよ ハレルヤ

2. 十字架をしのび ハレルヤ  
死にて死にかち ハレルヤ  
生きていのちを ハレルヤ  
ひとにぞたまう ハレルヤ

3. 主の死によりて ハレルヤ  
すくいはなりぬ ハレルヤ  
あまつつかいと ハレルヤ  
ともにぞうたわん ハレルヤ

アーメン

### ○聖歌隊による讃美

「主は生きておられる」 ウィリアム.J.ゲイサー 作曲  
主イエスと呼びまつる 御神のひとり子  
空しい墓こそが 救いの御業 証(あかし)する  
確かに生きておられる  
おそれは 消え去り 御力与えたもう  
よみがえりの主 仰ぐとき  
いつの日か 河を渡り  
最後の戦いに 勝利を得させたもう  
今も主生きておられるから 主が生きておられるから  
明日に目を向け 望みに満たされ  
われらも生きる 主とともに  
ハレルヤ ハレルヤ

### ○讃美歌321番

1. わが主イエスよ ひたすら  
いのりもとむ 愛をば  
まさせたまえ 主を愛する  
あいをば あいをば

2. 世のやすきと たのしみ  
もとめたりし 身なれど  
今はねがう 主を愛する  
あいをば あいをば

3. きたれ きたれ くるしみ  
うきなやみも いとわじ  
いさみうたわん 主を愛する  
あいをば あいをば

4. いまわの息 かすかに  
のこるときも あいをば  
まさせたまえ 主をあいする  
あいをば あいをば アーメン

聖餐曲「まことなるみ神を」 J.S.バッハ

後奏曲「父なる神よ、我らと共にすみたまえ」 J.バッハ